

令和 8 年度
堅果類の豊凶状況

令和 8 年 1 0 月
奈良県

令和8年度 堅果類豊凶調査の結果について

1) 背景

堅果類（いわゆるドングリ）はクマの秋季の主要な餌とされる。奈良県ではクマの秋季の出没を予測するにあたり、ブナ科樹種の豊凶を把握するため、クマの主な生息地である県南部地域において毎年調査を実施している。

2) 手法

対象樹種：ミズナラ、ブナ、コナラ

調査期間：8月25日～10月7日

調査地点：ミズナラ 18 地点、ブナ 17 地点、コナラ 13 地点

方法：各調査地点で 10 本の調査木を観察し、樹冠 1 m²あたりの結実数から豊凶度とした。

そして、調査木 10 本の豊凶度の平均を豊凶指数とした。

・豊凶度（樹冠 1 m²あたりの結実数）

- 0：1 個未満
- 1：1 個以上 5 個未満
- 2：5 個以上 10 個未満
- 3：10 個以上

・豊凶指数

- 0：ほとんど結実がない
- 0.1-0.6：ほとんどの木で少量以下の結実
- 0.7-1.2：多くの木で並の結実
- 1.3-1.8：一部の木で大量の結実
- 1.9-2.4：半数以上の木で大量結実
- 2.5-3.0：ほぼ全ての木で大量結実

県南部地域として以下の 4 段階で豊凶を区分した。

豊作：大量に結実している木が非常に多い。または、半数以上の木で大量の結実。

並作上：並作であるが、大量に結実している木が多い

並作下：並作であるが、大量に結実している木が少ない

凶作：どの木もほとんど結実していない。または、ほとんどの木で少量以下の結実

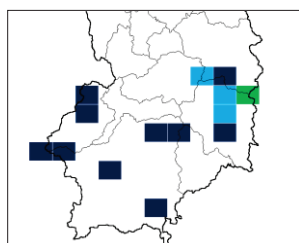
3) 結果

県南部全体では凶作である。

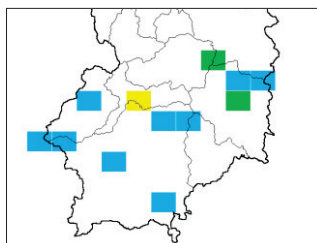
特にミズナラとコナラは結実がほとんどない調査地点が多かった。

そのため、10 月中旬以降のクマの人家付近や道路へのクマの出没が多くなると推測される。また、クマの活動範囲を県南部地域外へ拡大する可能性がある。

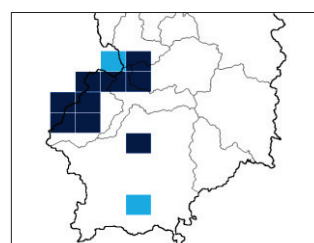
市町村やその他機関を通じて地域住民、登山者、観光客へ注意喚起すべきである。



ミズナラ：凶作



ブナ：凶作または並作下



コナラ：凶作

図. 各調査地における豊凶指数（5 km メッシュ）

参考)

表 1. 調査地点数 (直近 10 ヶ年)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
ミズナラ	24	23	23	23	22	21	19	18	15	18
ブナ	19	18	18	18	16	16	16	15	16	17
コナラ	69	10	8	8	8	8	8	8	8	13

表 2. 豊凶の経年変化 (直近 10 ヶ年)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
ミズナラ	並上	並下	凶	並下	凶か並下	並下	凶	並下	並下	凶
ブナ	並上	並下	凶	豊	凶	並上	凶	並下	凶	凶か並下
コナラ	並上	並下	並下	並下	並下	並下	並下	凶	並	凶

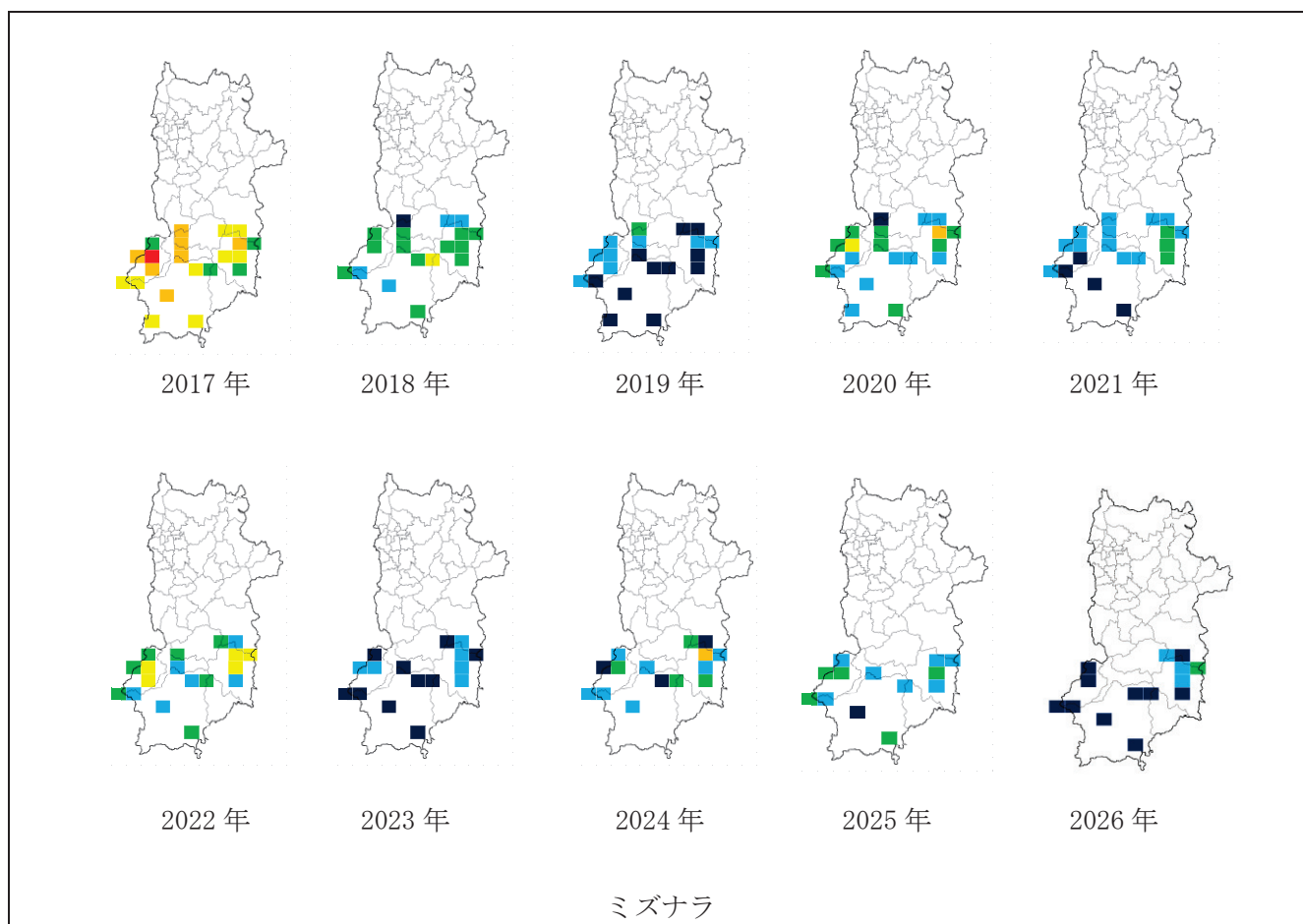


図 豊凶指数の経年変化 (5 km メッシュ)

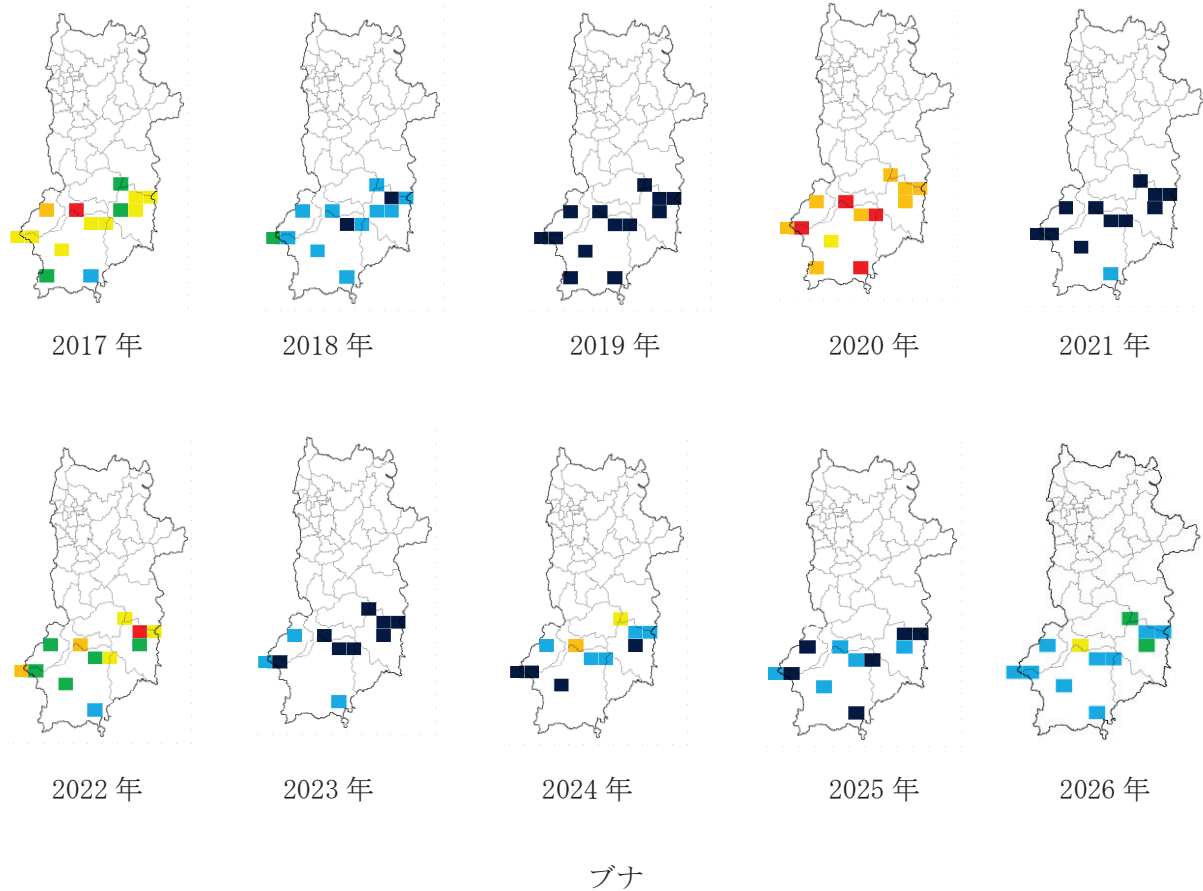


図 豊凶指数の経年変化 (5 km メッシュ)

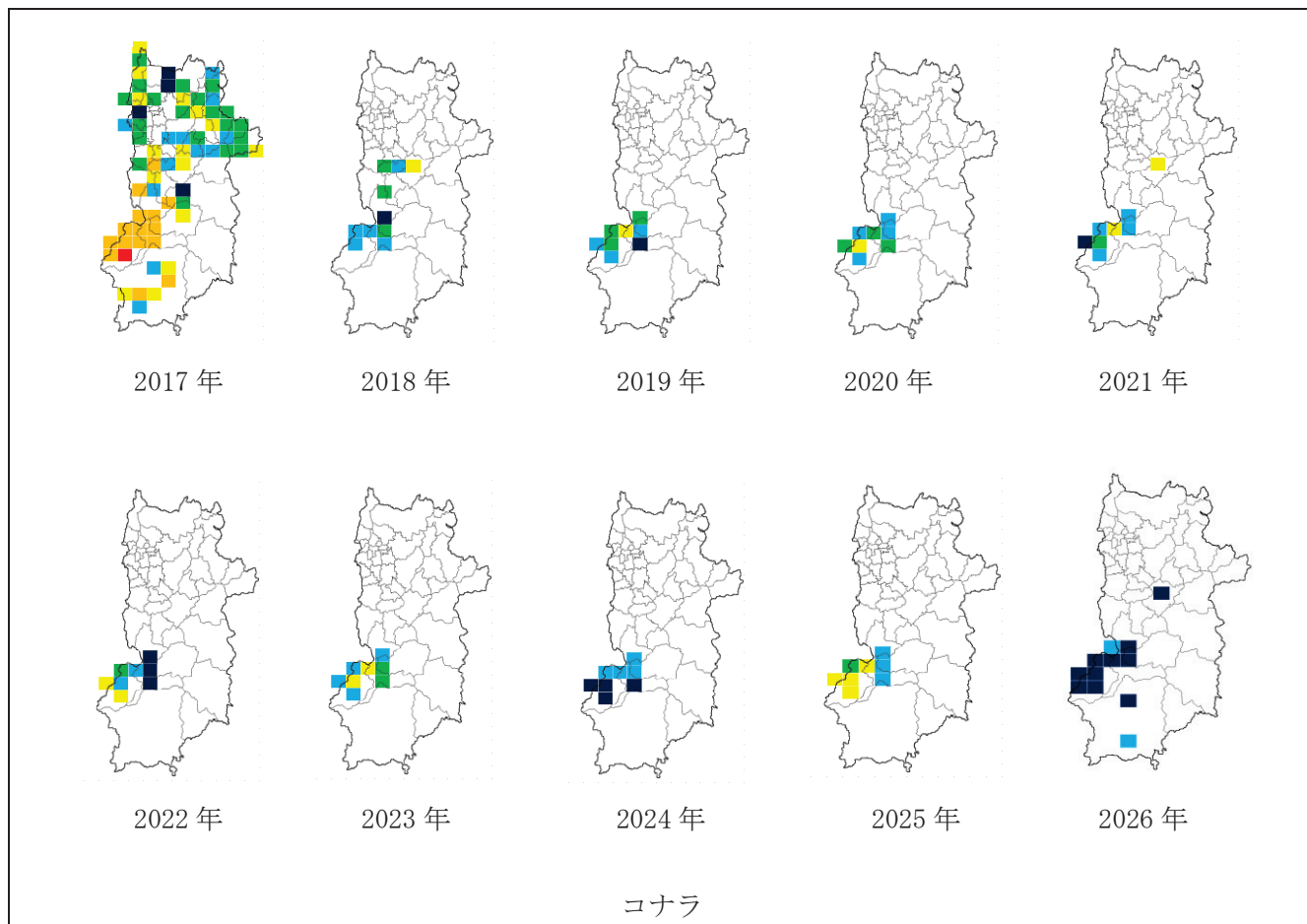


図. 豊凶指数の経年変化（5 km メッシュ）

コナラについては、奈良県におけるツキノワグマの出没との関連性が低いと判断されたため、2018 年より調査規模を縮小している。